

# 福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年1月号）

福島第二原子力発電所 1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

## 燃料の冷却を維持しながら 電源盤の取り替え作業を行っています

- 当所 1、2号機へ電気を供給している電源設備のうち、長期間使用してきた電源盤の一部について、昨年12月から取り替え作業を実施しています。
- 作業期間中も、燃料冷却に必要な電気の供給は継続しています。また、何らかの原因でこの電気が止まった場合を想定し、外部電源確保までの時間や手順、非常用ディーゼル発電機の待機台数および対応体制等について事前に検討、確認を行いました。
- 電源盤の搬入作業では、クレーン等を使用して重量物を吊ることから、作業エリアへの立ち入り制限や、開口部での安全帯の使用など、作業員の安全を確保しつつ、慎重、着実に行っています。
- 今後も人身安全や設備安全を最優先に作業を進めていきます。



昇降装置による電源盤の吊り下ろし



電源盤の据え付け



取り替え前の電源盤



取り替えた後の電源盤

## 燃料の冷却状況等について 県や各市町村による現地調査が行われました

- 当所では、すべての燃料を1～4号機の各使用済燃料プール内で一括管理し、安定した燃料の冷却を維持しています。
- 昨年12月24日には、その燃料冷却に関する取り組み状況等を確認するため、福島県、各市町村ならびに専門委員の方々に構成される「福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会」による現地調査が行われました。
- 現地調査では、燃料が保管されている使用済燃料プールの状況やプール水の冷却に必要な各機器の稼働状態、また労働災害の発生を未然に防止することを目的として開設した「危険予知研修施設」の設置状況について確認していただきました。
- 引き続き安全を第一に考え、燃料の安定的な冷却に努めていきます。



燃料冷却等の取り組み状況の説明



使用済燃料プール



冷却した使用済燃料プールの  
水を循環させるポンプ



危険予知研修施設

## 応用力を発揮し想定外事象を収束できるよう 緊急時の作業環境を想定した訓練を実施しました

- 震災の教訓から発足した4つのチーム\*による直営技術力強化訓練は3年目に入り、「緊急事態に想定外の事象が発生しても日頃の訓練を通し応用力を発揮して収束できる」という新たなステップに入りました。
- その一環として、基礎技術力の更なる強化を図ることを目的に、高線量下の作業環境を想定し、通常の安全装備に加え、カバーオールや全面マスク等を装着した、新たな訓練を実施しています。
- 全面マスク等を装着しての作業は、体力を消耗するとともに、視野が狭く、声が伝わりづらいため、作業責任者や玉掛け合図者が手を使って合図をする等、作業員全員が意思疎通を図りながら訓練を行いました。
- 引き続き訓練を重ね、直営技術力の強化を図っていきます。



玉掛け合図者の合図による  
ケーブルドラムの積み込み



ケーブルドラムの積み下ろし



ケーブル敷設



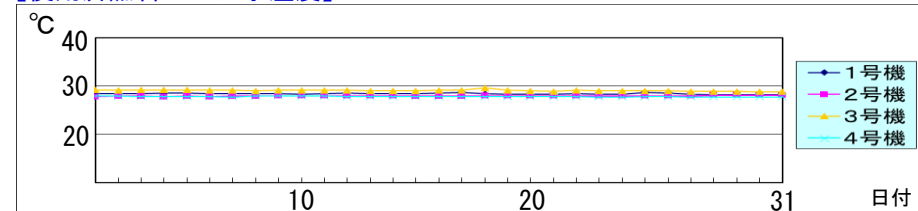
ケーブル端末処理

\* 機器が壊れた場合でも当社社員単独で対応できるよう、4つのチーム（ガレキ撤去、モータ取替、ケーブル接続、ポンプ復旧）を結成し、技術力の習得訓練を計画的に行っています。

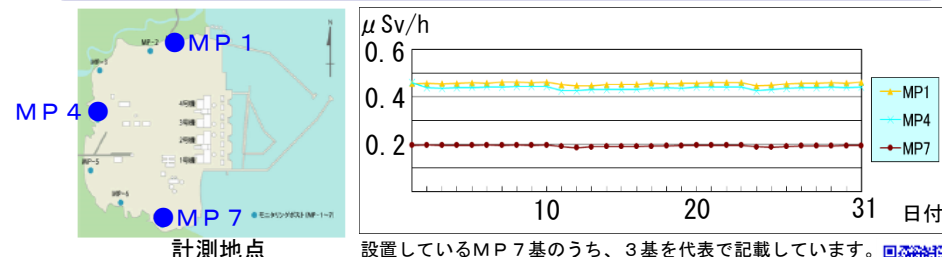
## 燃料の冷却状況（12月分）

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【使用済燃料プール水温度】



## モニタリングポスト（MP）の計測状況（12月分）



計測地点

設置しているMP7基のうち、3基を代表で記載しています。

さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。 <QRコード>  
<URL> <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>



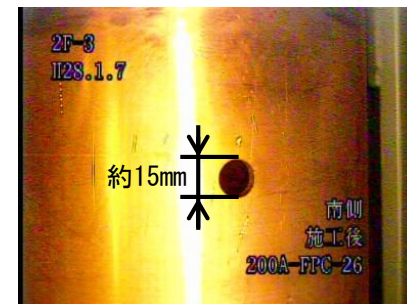
## 燃料の冷却に係わる設備の信頼性向上として

### 3号機使用済燃料プール冷却系の配管を加工しました

- 当所3号機では、燃料の冷却に係わる設備の信頼性向上を目的として、使用済燃料プール水を冷却するシステムの配管において、サイフォン現象\*によるプール水位低下を防止するための加工作業（先月号でお知らせ済み）を1月6日、7日で行い、完了しました。
- 今後、1、2、4号機についても、順次同様な穴開け作業を行う予定です。

\* サイフォン現象

水槽にホースを入れ、ホースのもう片方を水面より低い位置へ置いた時に、水槽の水が流出し続ける現象



加工作業（穴開け）後の配管